

# 枚方市商工だより

(2011年4月)

[主な内容]

地域経済動向調査VOL-86 (2011年1~3月)

枚方市

【調査の概要】

本調査は、枚方市の委託事業として北大阪商工会議所が実施しているもので、地域経済の総合的な動向を把握することで、産業振興のための基礎資料として利用するとともに、地域の経営者等へ情報提供している。

調査対象は、製造業、建設業、卸売業、小売業、飲食業、サービス業の6業種で、市内の主要な産業を網羅している。

企業規模は、製造業は全数を、その他の業種は、従業者規模5人以上の事業所から無作為抽出している。

調査方法は、往復はがきによるアンケート方式で、2011年4月上旬に956社に発送し、回答期限までに210社から回答が得られた。

全体の回答率は22.0%で、業種別・規模別回答状況は、表1、表2の通りである。

表 1. 業種別回答状況

集約業種名		母集団	回答数	回答率
製造業	食料・飲料	37	8	21.6
	繊維・衣服	58	6	10.3
	木材・家具	17	3	17.6
	紙・出版・印刷	35	4	11.4
	化学・プラスチック	53	16	30.2
	鉄鋼・非鉄金属	28	9	32.1
	金属製品	62	11	17.7
	一般機械	69	11	15.9
	電気機械	35	8	22.9
	その他の製造業	38	10	26.3
製造業計		432	86	19.9
非製造業	建設業	106	27	25.5
	卸売業	57	15	26.3
	小売業	182	33	18.1
	飲食店	60	10	16.7
	サービス業	119	39	32.8
非製造業計		524	124	23.7
合計		956	210	22.0

表 2. 規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率
1～3人	94	6	6.4	—	—	—	94	6	6.4
4～9人*	100	14	14.0	247	59	23.9	347	73	21.0
10～19人	74	14	18.9	146	29	19.9	220	43	19.5
20～29人	28	10	35.7	57	15	26.3	85	25	29.4
30～49人	46	18	39.1	39	9	23.1	85	27	31.8
50～99人	35	10	28.6	19	7	36.8	54	17	31.5
100～199人	35	10	28.6	11	4	36.4	46	14	30.4
200～299人	7	2	28.6	3	1	33.3	10	3	30.0
300人以上	13	2	15.4	2	0	0.0	15	2	13.3
合計	432	86	19.9	524	124	23.7	956	210	22.0

\*非製造業の規模 4～9人は 5～9人である。

## 【 概要 】

国内の景気は、東日本大震災の影響で、当面は弱い動きが続くとみられる。失業率は前月と変わらない。

先行きについては、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待される。一方、電力供給の制約や、海外の日本への渡航自粛、日本の一次産品を敬遠する動きなど、景気が下押しされる要因がある。また、依然としてデフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が残っていることにも注意が必要である。

政府は4月の月例経済報告で、景気の基調判断を、前月の「持ち直しに転じているが、自律性は弱く、東北地方太平洋沖地震の影響が懸念される」から「持ち直していたが、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きとなっている」とした。輸出についても「東日本大震災の影響による減少が懸念される」としている。

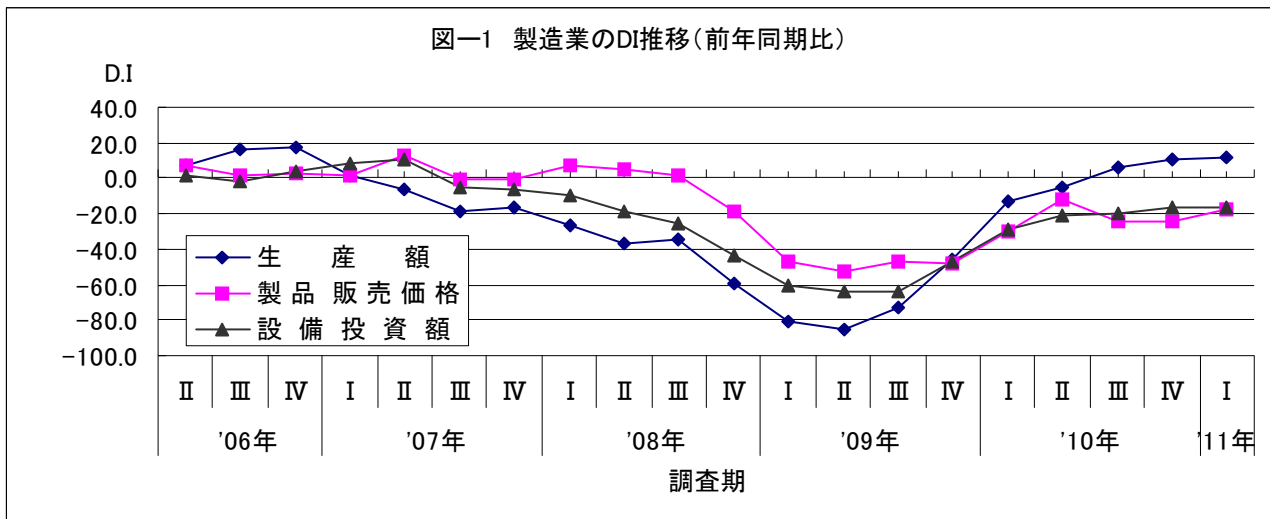
総務省が労働力調査において発表した平成23年3月の完全失業率（季節調整値）は4.6%で、前月と同率である。また、厚生労働省の発表した3月の有効求人倍率は0.63倍で、前月に比べ0.01P（ポイント）上昇した。

帝国データバンクによると、2011年3月の倒産件数は1,041件で、前月比は17.8%の増加、前年同月比は9.3%の減少となった。前年同月比は2ヵ月連続で減少したものの、2010年6月以来、9ヵ月ぶりに1,000件を超えた。うち、不況型倒産は882件である。構成比は84.7%で、前月と比べると1.1Pの増加、前年同月比では1.9Pの増加となっており、2009年6月以来、22ヵ月連続で80%台の高水準となった。規模別にみると、中小企業は1,038件で全体の99.7%を占める。小規模企業も886件で、全体の85.1%を占め、依然として小規模倒産が高水準で推移している。今後被災企業だけでなく、被災企業の取引先など、間接被害を受けた倒産の多発が懸念されている。景気D.Iは31.6Pで、前月に比べ3.8P減少と、5ヵ月ぶりに悪化した。

今後、夏期の電力供給の制約や、原材料価格の上昇、建設業や出版業で顕著な材料の不足等が企業に与える影響が懸念される。

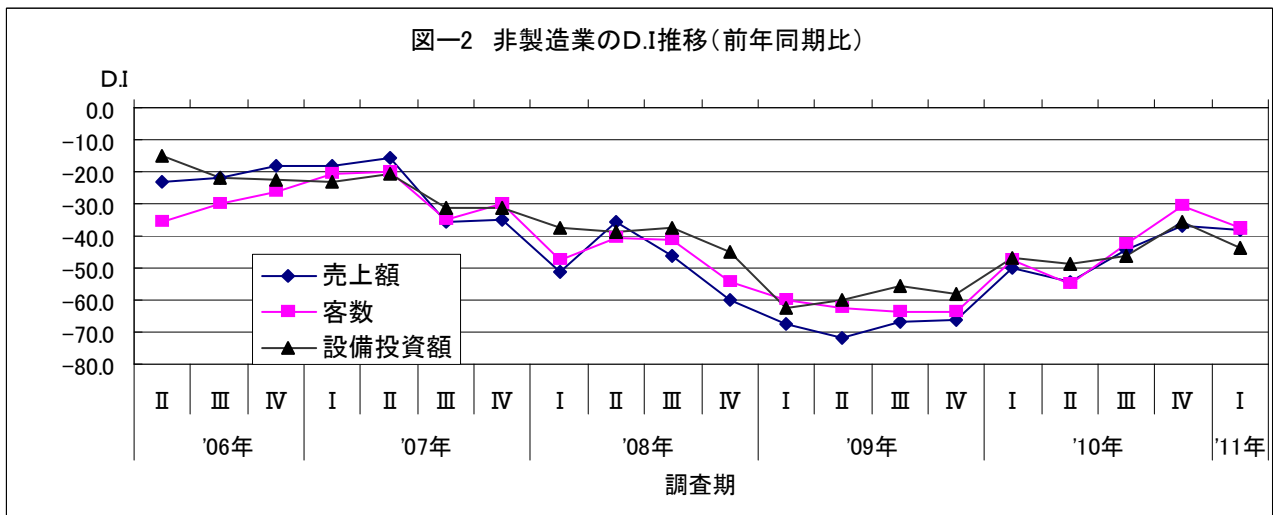
(注) 景気動向指標 (D. I = Diffusion Index)

= (増加・好転した企業の割合) - (減少・悪化した企業の割合)



2011年第I四半期(1~3月)の枚方市の製造業の生産額は、業種によってばらつきがみられる。出荷額はD.Iのマイナス幅が縮小している。製品在庫額は8割以上の企業が適正である。向こう3ヶ月の景気見通しは、好転する見方は少数である。

前年同期比では、生産額のD.Iは引き続きプラスとなっている。製品販売価格は、横這企業が7割近くを占めている。設備投資額のD.Iに大きな変化はない。



非製造業の売上額には改善がみられない。採算状況と資金繰りは、僅かにD.Iのマイナス幅が縮小している。向こう3ヶ月の景気見通しは、好転見通しは少数である。

前年同期と比較して、売上額のD.Iには、大きな変化はない。客数・販売先数、設備投資額のD.Iは後退している。

表3 総括表(D.Iの推移)

景気動向指標			'06年				'07年				'08年			
			I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
製 造 業	前期比	生産額	0.0	-2.1	14.9	20.0	-7.4	-17.3	-17.4	-1.1	-26.9	-33.6	-33.0	-56.1
		出荷額	-2.4	-4.3	20.4	19.1	-5.3	-14.4	-16.5	-1.1	-22.8	-28.0	-35.4	-58.8
		製品在庫額	-6.7	-14.6	-7.4	-9.0	-6.6	-6.5	-12.8	-6.0	-12.5	-14.3	-9.7	-27.5
	前期比	原材料仕入額	53.2	65.3	66.7	54.3	57.9	64.6	55.6	62.8	63.0	81.3	67.7	6.3
		製品販売価格	-1.3	4.2	1.0	-3.3	-4.3	5.3	0.0	8.0	4.3	3.8	1.0	-19.8
		採算状況	-12.2	-33.3	-28.0	-19.1	-33.7	-33.7	-33.0	-48.3	-35.9	-54.2	-56.7	-63.2
		資金繰り	0.0	-13.8	-5.1	-5.4	-14.9	-6.2	-15.4	-25.0	-16.3	-27.1	-33.0	-37.2
	前期比	受注状況	6.1	-1.0	6.9	9.6	-10.5	-13.4	-27.2	-5.7	-23.7	-38.7	-43.3	-67.5
		向こう3カ月の景況	8.6	8.4	10.9	-2.1	-5.4	-4.1	-7.8	-24.4	-30.0	-34.3	-48.5	-77.0
		前年同期比	生産額	9.8	7.3	16.2	17.0	1.1	-6.1	-18.5	-16.9	-26.1	-36.4	-34.0
前年同期比	製品販売価格	0.0	7.4	2.1	3.3	1.1	12.6	-1.1	-1.1	7.7	4.7	2.1	-18.6	
	設備投資額	7.5	2.2	-2.0	4.4	7.9	10.6	-5.6	-5.9	-10.2	-19.2	-26.0	-43.2	
非 製 造 業	前期比	売上額	-23.9	-6.4	-21.7	-9.3	-20.2	-14.4	-22.6	-25.2	-42.2	-40.3	-38.4	-52.7
		採算状況	-43.3	-35.0	-39.1	-30.7	-34.4	-30.3	-43.1	-46.9	-55.6	-57.0	-55.5	-66.4
		資金繰り	-22.7	-25.4	-27.1	-20.5	-25.4	-18.0	-29.8	-30.6	-37.3	-38.9	-43.2	-44.3
		向こう3カ月の景況	-10.7	-22.8	-23.9	-25.8	-26.0	-30.1	-34.1	-47.3	-54.1	-52.8	-60.0	-74.0
	前年同期比	売上額	-23.6	-22.9	-21.7	-17.8	-18.1	-15.4	-35.5	-34.7	-51.5	-35.7	-46.5	-60.3
		客数・販売先数	-35.8	-35.6	-29.9	-26.5	-20.6	-19.8	-35.2	-29.7	-47.3	-40.4	-41.1	-54.3
		設備投資額	-20.2	-14.9	-22.1	-22.6	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8	-37.4	-44.9

景気動向指標			'09年				'09年				'10年			
			I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
製 造 業	前期比	生産額	-70.8	-55.7	-27.8	-20.4	-21.0	-5.1	-12.4	-5.7	-3.2			
		出荷額	-68.1	-58.5	-30.8	-19.6	-18.3	-5.0	-9.6	-10.5	-2.2			
		製品在庫額	-23.3	-21.8	-19.6	-11	-17.0	-5.3	-3.0	-1.3	0			
	前期比	原材料仕入額	-17	-1.89	7.619	-2.83	19.2	32.3	18.3	32.6	37.4			
		製品販売価格	-38.4	-38.7	-27.4	-31.4	-21.2	-23.5	-18.8	-20.9	-8.7			
		採算状況	-74.6	-63.6	-46.3	-31.5	-38.1	-33.7	-32.4	-31.0	-23.4			
		資金繰り	-52.7	-45.3	-33.6	-28	-27.9	-21.4	-24.3	-23.3	-10.8			
	前期比	受注状況	-79.8	-69.2	-34.3	-29.9	-21.9	-10.9	-13.3	-14.9	-6.5			
		向こう3カ月の景況	-67.3	-38.3	-33.3	-30.6	-30.5	-5.0	-28.8	-15.1	-43.6			
		前年同期比	生産額	-80.5	-84.9	-72.9	-45.8	-13.3	-5.0	5.7	10.3	11.8		
前年同期比	製品販売価格	-47.3	-52.8	-46.7	-47.6	-29.8	-12.1	-24.8	-24.4	-18.0				
	設備投資額	-60.9	-64.1	-63.4	-46.6	-29.0	-20.6	-20.2	-16.0	-16.7				
非 製 造 業	前期比	売上額	-66.7	-47.9	-57.9	-43.5	-43.8	-45.7	-34.6	-24.8	-33.9			
		採算状況	-73.9	-60	-69.9	-54.4	-54.4	-54.3	-51.1	-49.6	-46.0			
		資金繰り	-56.3	-46.2	-50.4	-40.6	-41.5	-46.5	-40.9	-42.2	-38.2			
		向こう3カ月の景況	-67.4	-50.7	-51.9	-63.7	-46.3	-45.5	-48.1	-38.6	-51.3			
	前年同期比	売上額	-67.4	-71.7	-66.7	-66.4	-50.0	-54.4	-44.4	-37.0	-37.8			
		客数・販売先数	-60.2	-62.7	-64	-63.7	-47.5	-55.1	-42.7	-30.4	-37.6			
		設備投資額	-62.2	-60.3	-55.5	-57.8	-47.0	-48.6	-46.5	-35.8	-43.5			

# I. 業種別の景気動向

## 1. 製造業の景気動向

### ①【生産額】

前期と比べた当期（2011年1～3月）の生産額は、増加26.6%、横這43.6%、減少29.8%となっている。総合D.Iはマイナス3.2Pである。

業種別にみると、食料・飲料は、減少企業が減って、D.Iは0となっている。化学・プラスチックでは横這企業が6割以上を占めている。鉄鋼・非鉄金属は横這企業が増えている。金属製品は減少企業が過半数を占めている。一般機械はD.Iがマイナスからプラスへ転じている。電気機械では横這企業が半数を占めている。

前年同期比では、増加39.8%、横這32.3%、減少28.0%である。総合D.Iはプラス11.8Pで、引き続きD.Iがプラスとなっている。

業種別にみると、食料・飲料では増加企業が6割以上を占め、D.Iはマイナスからプラスへ転じている。繊維・衣服では前期皆無であった増加企業が見られる。木材・家具は前期と変わらない。紙・出版・印刷では増加と横這が拮抗している。鉄鋼・非鉄金属ではD.Iのプラス幅が縮小している。金属製品はD.Iがプラスからマイナスへ転じている。その他の製造業では、増加と横這と減少が拮抗している。

（表4）

表4. 生産額

業種	当期の生産額は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	8	25.0	50.0	25.0	0.0	8	62.5	25.0	12.5	50.0
	繊維・衣服	14	21.4	28.6	50.0	-28.6	14	42.9	21.4	35.7	7.1
	木材・家具	3	66.7	33.3	0.0	66.7	3	66.7	33.3	0.0	66.7
	紙・出版・印刷	4	25.0	25.0	50.0	-25.0	4	50.0	50.0	0.0	50.0
	化学・プラスチック	16	12.5	62.5	25.0	-12.5	16	18.8	43.8	37.5	-18.8
	鉄鋼・非鉄金属	9	33.3	55.6	11.1	22.2	9	44.4	33.3	22.2	22.2
	金属製品	11	18.2	27.3	54.5	-36.4	11	27.3	27.3	45.5	-18.2
	一般機械	11	36.4	45.5	18.2	18.2	11	36.4	27.3	36.4	0.0
	電気機械	8	37.5	50.0	12.5	25.0	8	62.5	37.5	0.0	62.5
	その他の製造業	10	30.0	40.0	30.0	0.0	9	33.3	33.3	33.3	0.0
製造業計	94	26.6	43.6	29.8	-3.2	93	39.8	32.3	28.0	11.8	

## ②【出荷額】

当期の出荷額は、増加 28.3%、横這 41.3%、減少 30.4%となっている。総合 D.I は マイナス 2.2P である。

業種別では、食料・飲料は横這が増加している。繊維・衣服は前期皆無であった増加企業がみられ、D.I のマイナス幅が縮小している。化学・プラスチックは横這が 6 割を超えている。鉄鋼・非鉄金属では横這企業が増えている。金属製品では過半数の企業が減少している。一般機

械、その他の製造業では、増加企業が増え、D.I がマイナスからプラスへ転じている。

(表 5)

表 5. 出 荷 額

業 種	出荷額は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製	食料・飲料	8	25.0	50.0	25.0	0.0
	繊維・衣服	13	15.4	30.8	53.8	-38.5
	木材・家具	3	66.7	33.3	0.0	66.7
	紙・出版・印刷	3	33.3	0.0	66.7	-33.3
造	化学・プラスチック	16	12.5	62.5	25.0	-12.5
	鉄鋼・非鉄金属	9	44.4	44.4	11.1	33.3
	金属製品	11	18.2	27.3	54.5	-36.4
業	一般機械	11	36.4	45.5	18.2	18.2
	電気機械	8	37.5	50.0	12.5	25.0
	その他の製造業	10	40.0	30.0	30.0	10.0
	製造業計	92	28.3	41.3	30.4	-2.2

## ③【製品在庫額】

前期と比べた製品在庫額は、不足 8.8%、適正 82.4%、過剰 8.8%である。総合 D.I は 0 となっている。適正水準の企業が大半を占めている。

業種別にみると、食料・飲料、紙・出版・印刷は全ての企業が適正である。繊維・衣服、化学・プラスチックは 8 割以上が適正である。鉄鋼・非鉄金属、一般機械では前期皆無であった不足企業がみられる。電気機械では大多数が適正である。その他の製造業では適正企業が 8 割を占めている。

(表 6)

表 6. 製品在庫額

業 種	在庫額は 前期に比べ					
	件数	不足	適正	過剰	D.I	
製	食料・飲料	8	0.0	100.0	0.0	0.0
	繊維・衣服	13	7.7	84.6	7.7	0.0
	木材・家具	3	0.0	66.7	33.3	-33.3
	紙・出版・印刷	4	0.0	100.0	0.0	0.0
造	化学・プラスチック	16	12.5	81.3	6.3	6.3
	鉄鋼・非鉄金属	9	22.2	77.8	0.0	22.2
	金属製品	11	18.2	63.6	18.2	0.0
業	一般機械	10	10.0	90.0	0.0	10.0
	電気機械	7	0.0	85.7	14.3	-14.3
	その他の製造業	10	0.0	80.0	20.0	-20.0
	製造業計	91	8.8	82.4	8.8	0.0

#### ④ 【原材料仕入額】

前期と比べた原材料仕入額は、値上がり 37.4%、横這 62.6%である。総合 D.I はプラス 37.4P となっている。

業種別では、値下がり企業は皆無である一方、値上がり企業は全ての業種でみられる。繊維・衣服は横這が増えている。紙・出版・印刷では前期皆無であった値上がり企業がみられる。鉄鋼・非鉄金属では 8 割近くの企業が値上がりしている。(表 7)

表 7. 原材料仕入額

業 種	仕入額は 前期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	14.3	85.7	0.0	14.3
	繊維・衣服	12	25.0	75.0	0.0	25.0
	木材・家具	3	33.3	66.7	0.0	33.3
	紙・出版・印刷	4	25.0	75.0	0.0	25.0
	化学・プラスチック	16	37.5	62.5	0.0	37.5
	鉄鋼・非鉄金属	9	77.8	22.2	0.0	77.8
	金属製品	11	36.4	63.6	0.0	36.4
	一般機械	11	45.5	54.5	0.0	45.5
	電気機械	8	25.0	75.0	0.0	25.0
	その他の製造業	10	40.0	60.0	0.0	40.0
製造業計	91	37.4	62.6	0.0	37.4	

#### ⑤ 【製品販売価格】

前期と比べた製品販売価格は、値上がり 3.3%、横這 84.8%、値下がり 12.0%となっている。横這が 8 割以上を占めており、総合 D.I はマイナス 8.7P である。

業種別では、値上がり企業は鉄鋼・非鉄金属、その他の製造業の 2 業種でみられる一方、値下がり企業は 7 つの業種にみられる。繊維・衣服は横這が増加し、D.I のマイナス幅が縮小している。木材・家具、紙・出版・印刷、化学・プラスチックでは全ての企業が横這である。鉄鋼・非鉄金属では D.I がマイナスからプラスへ転じている。一般機械では横這企業が 8 割以上を占め、D.I のマイナス幅が縮小している。その他の製造業では、前期皆無であった値上がり企業がみられる。

前年同期比では、値上がり 6.7%、横這 68.5%、値下がり 24.7%となっている。総合 D.I はマイナス 18.0P である。(表 8)

表 8. 製品販売価格

業 種	当期の販売価格は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	8	0.0	87.5	12.5	-12.5	7	14.3	71.4	14.3	0.0
	繊維・衣服	12	0.0	83.3	16.7	-16.7	11	9.1	72.7	18.2	-9.1
	木材・家具	3	0.0	100.0	0.0	0.0	3	0.0	66.7	33.3	-33.3
	紙・出版・印刷	4	0.0	100.0	0.0	0.0	4	0.0	50.0	50.0	-50.0
	化学・プラスチック	16	0.0	100.0	0.0	0.0	16	0.0	81.3	18.8	-18.8
	鉄鋼・非鉄金属	9	22.2	66.7	11.1	11.1	9	22.2	66.7	11.1	11.1
	金属製品	11	0.0	72.7	27.3	-27.3	11	0.0	63.6	36.4	-36.4
	一般機械	11	0.0	81.8	18.2	-18.2	10	0.0	80.0	20.0	-20.0
	電気機械	8	0.0	87.5	12.5	-12.5	8	25.0	62.5	12.5	12.5
	その他の製造業	10	10.0	80.0	10.0	0.0	10	0.0	50.0	50.0	-50.0
製造業計	92	3.3	84.8	12.0	-8.7	89	6.7	68.5	24.7	-18.0	



## ⑥【採算状況】

前期と比べた採算状況は、好転 7.4%、横這 61.7%、悪化 30.9%となっている。総合 D.I はマイナス 23.4P である。

業種別では、食料・飲料は横這が大勢を占めている。繊維・衣服は前期皆無であった好転企業がみられ、D.I のマイナス幅が縮小している。木材・家具は全て横這である。紙・出版・印刷は横這と悪化が拮抗している。化学・プラスチックは前期みられなかった好転企業がみられる。鉄鋼・非鉄金属は大多数が横這である。一般機械は前期皆無であった好転企業がみられ、D.I のマイナス幅が縮小している。電気機械では、横這が大勢を占めている。その他の製造業は、D.I のマイナス幅が拡大している。(表 9)

表 9. 採算状況

業 種	採算状況は 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製	食料・飲料	8	0.0	75.0	25.0	-25.0
	繊維・衣服	14	7.1	50.0	42.9	-35.7
	木材・家具	3	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	4	0.0	50.0	50.0	-50.0
造	化学・プラスチック	16	6.3	62.5	31.3	-25.0
	鉄鋼・非鉄金属	9	0.0	88.9	11.1	-11.1
	金属製品	11	9.1	45.5	45.5	-36.4
業	一般機械	11	18.2	54.5	27.3	-9.1
	電気機械	8	12.5	75.0	12.5	0.0
	その他の製造業	10	10.0	50.0	40.0	-30.0
	製造業計	94	7.4	61.7	30.9	-23.4

## ⑦【資金繰り】

前期と比べた当期の資金繰りは、好転 5.4%、横這 78.5%、悪化 16.1%となっている。総合 D.I はマイナス 10.8P である。

業種別では、食料・飲料、化学・プラスチックは大多数の企業が横這である。繊維・衣服は、横這が増えて、D.I のマイナス幅が縮小している。木材・家具は全ての企業が横這である。紙・出版・印刷は横這が大勢を占めている。金属製品は前期皆無であった好転企業がみられる。一般機械は前期皆無であった好転企業がみられる。また、横這が 8 割以上を占め、D.I がマイナスからプラスへ転じている。電気機械は横這が大勢を占めている。その他の製造業では、前期皆無であった好転企業が僅かながらみられる。(表 10)

表 10. 資金繰り

業 種	資金繰りは 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製	食料・飲料	8	0.0	87.5	12.5	-12.5
	繊維・衣服	13	0.0	69.2	30.8	-30.8
	木材・家具	3	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	4	0.0	75.0	25.0	-25.0
造	化学・プラスチック	16	0.0	87.5	12.5	-12.5
	鉄鋼・非鉄金属	9	0.0	88.9	11.1	-11.1
	金属製品	11	9.1	63.6	27.3	-18.2
業	一般機械	11	18.2	81.8	0.0	18.2
	電気機械	8	12.5	75.0	12.5	0.0
	その他の製造業	10	10.0	70.0	20.0	-10.0
	製造業計	93	5.4	78.5	16.1	-10.8

## ⑧ 【受注状況】

前期と比べた当期の受注状況は、増加 26.1%、横這 41.3%、減少 32.6%である。総合 D.I はマイナス 6.5P である。

業種別では、食料・飲料は横這が 7 割以上を占めている。繊維・衣服では前期皆無であった増加企業がみられる。紙・出版・印刷では増加企業が増え、D.I はマイナスからプラスへ転じている。化学・プラスチックでは増加企業が増え、D.I のマイナス幅が縮小している。電気機械は D.I のプラス幅が縮小している。その他の製造業では増加企業が増えている。

(表 11)

表 11. 受注状況

業 種		受注状況は 前期に比べ				
		件数	増加	横這	減少	D.I
製 造 業	食 料 ・ 飲 料	7	14.3	71.4	14.3	0.0
	繊 維 ・ 衣 服	13	15.4	46.2	38.5	-23.1
	木 材 ・ 家 具	3	66.7	0.0	33.3	33.3
	紙 ・ 出 版 ・ 印 刷	4	50.0	25.0	25.0	25.0
	化 学 ・ プ ラ ス チ ッ ク	16	18.8	56.3	25.0	-6.3
	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	9	11.1	66.7	22.2	-11.1
	金 属 製 品	11	36.4	9.1	54.5	-18.2
	一 般 機 械	11	18.2	45.5	36.4	-18.2
	電 気 機 械	8	37.5	37.5	25.0	12.5
	そ の 他 の 製 造 業	10	40.0	20.0	40.0	0.0
製造業計		92	26.1	41.3	32.6	-6.5

## ⑨ 【設備投資額】

前年同期と比べた当期の設備投資額は、増加 12.2%、横這 58.9%、減少 28.9%である。総合 D.I はマイナス 16.7P である。

業種別では、繊維・衣服、化学・プラスチックでは前期皆無であった増加企業がみられる。紙・出版・印刷は変化がない。鉄鋼・非鉄金属では横這が大勢を占めている。一般機械、電機機械は横這が増加している。その他の製造業は横這が 8 割を占めている。

(表 12)

表 12. 設備投資額

業 種		設備投資額は 前年同期に比べ				
		件数	増加	横這	減少	D.I
製 造 業	食 料 ・ 飲 料	8	12.5	62.5	25.0	-12.5
	繊 維 ・ 衣 服	12	8.3	58.3	33.3	-25.0
	木 材 ・ 家 具	3	0.0	66.7	33.3	-33.3
	紙 ・ 出 版 ・ 印 刷	3	0.0	66.7	33.3	-33.3
	化 学 ・ プ ラ ス チ ッ ク	16	12.5	50.0	37.5	-25.0
	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	8	12.5	75.0	12.5	0.0
	金 属 製 品	11	9.1	45.5	45.5	-36.4
	一 般 機 械	11	27.3	45.5	27.3	0.0
	電 気 機 械	8	12.5	62.5	25.0	-12.5
	そ の 他 の 製 造 業	10	10.0	80.0	10.0	0.0
製造業計		90	12.2	58.9	28.9	-16.7

⑩【向こう3カ月の景況】

来期の景気見通しは、好転 8.5%、横這 39.4%、悪化 52.1%となっている。総合 D.I はマイナス 43.6P である。

業種別では、食料・飲料は前期と変わらない。繊維・衣服、紙・出版・印刷、その他の製造業は半数が横這である。木材・家具は、全ての企業が横這である。化学・プラスチックは、悪化見通しが増加し、D.I のマイナス幅が拡大している。金属製品は前期皆無であった好転見通しがみられるものの、悪化見通しが増加し、D.I のマイナス幅が拡大している。電気機械は全ての企業が悪化見通しである。

(表 13)

表 13. 向こう3カ月の景況

業 種		向こう 3カ月の景況				
		件数	好転	横這	悪化	D.I
製 造 業	食料・飲料	8	12.5	50.0	37.5	-25.0
	繊維・衣服	14	7.1	50.0	42.9	-35.7
	木材・家具	3	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	4	25.0	50.0	25.0	0.0
	化学・プラスチック	16	0.0	37.5	62.5	-62.5
	鉄鋼・非鉄金属	9	11.1	33.3	55.6	-44.4
	金属製品	11	18.2	18.2	63.6	-45.5
	一般機械	11	9.1	45.5	45.5	-36.4
	電気機械	8	0.0	0.0	100.0	-100.0
	その他の製造業	10	10.0	50.0	40.0	-30.0
製造業計		94	8.5	39.4	52.1	-43.6

## 2. 建設業の景気動向

建設業の売上額は、増加企業が僅かながら増加し、D.Iのマイナス幅が縮小している。資材仕入額は、値下がり企業が皆無で、D.Iはマイナスからプラスへ転じている。労務費は、横這が大多数を占め、安定している。

工事引合件数は、減少企業が減ってD.Iのマイナス幅が縮小している。受注単価は、横這が増加し、D.Iのマイナス幅が縮小している。採算状況、資金繰り、受注状況は、前期皆無であった好転企業が僅かながらみられる。

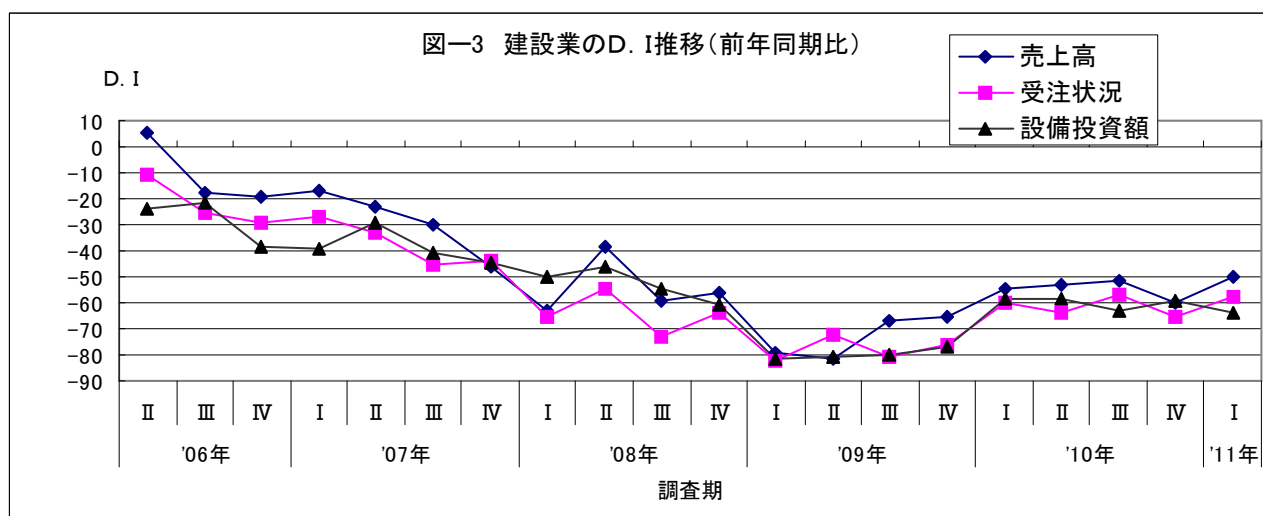
向こう3カ月の景況感は、好転見通しは皆無で、悪化見通しが8割以上を占めている。

前年同期比では、売上額は減少企業が僅かに減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。受注状況は、横這企業が増えている。設備投資額は、増加企業は皆無で、減少企業が6割以上を占めている。

(表14、図3)

表 14. 建設業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	27	14.8	40.7	44.4	-29.6
	資材仕入額	27	33.3	66.7	0.0	33.3
	労務費	27	3.7	96.3	0.0	3.7
	工事引合件数	27	7.4	40.7	51.9	-44.4
	受注単価	27	0.0	63.0	37.0	-37.0
	採算状況	27	3.7	40.7	55.6	-51.9
	資金繰り	27	3.7	59.3	37.0	-33.3
	受注状況	27	3.7	37.0	59.3	-55.6
	向こう3カ月の景況	27	0.0	18.5	81.5	-81.5
前年同期比	売上額	26	3.8	42.3	53.8	-50.0
	受注状況	26	0.0	42.3	57.7	-57.7
	設備投資額	25	0.0	36.0	64.0	-64.0



### 3. 卸売業の景気動向

売上額は、減少企業が増え、D.Iはプラスからマイナスへ転じている。販売先数は、横這企業が過半数を占めている。客単価は、減少が過半数を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。

商品仕入価格は、値上がり企業が半数を占めている。商品在庫は、過半数の企業が適正である。商品販売価格は、横這が6割を占めている。

採算状況は、過半数が悪化している。資金繰りは、6割の企業が横這である。荒利益率は、D.Iのマイナス幅が拡大している。

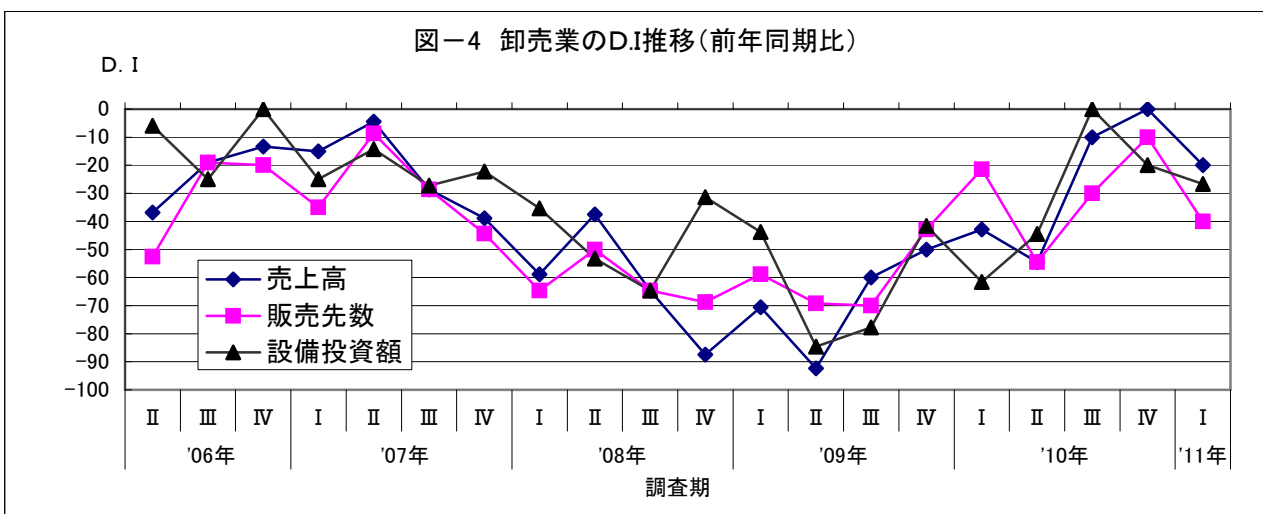
向こう3ヵ月の景況感は、悪化見通しが7割近くを占めている。

前年同期比の売上額は減少が増え、D.Iは再びマイナスとなっている。販売先数は、減少企業が増加し、D.Iのマイナス幅が拡大している。設備投資額は、回復がみられない。  
(表15、図4)

表 15. 卸売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	15	26.7	13.3	60.0	-33.3
	販売先数	15	6.7	53.3	40.0	-33.3
	客単価	15	13.3	33.3	53.3	-40.0
	商品仕入価格	14	50.0	42.9	7.1	42.9
	商品在庫	15	13.3	53.3	33.3	-20.0
	商品販売価格	15	13.3	60.0	26.7	-13.3
	採算状況	15	13.3	33.3	53.3	-40.0
	資金繰り	15	6.7	60.0	33.3	-26.7
	荒利益率	15	6.7	46.7	46.7	-40.0
	向こう3ヵ月の景況	13	7.7	23.1	69.2	-61.5
前年同期比	売上額	15	33.3	13.3	53.3	-20.0
	販売先数	15	6.7	46.7	46.7	-40.0
	設備投資額	15	13.3	46.7	40.0	-26.7

図-4 卸売業のD.I推移(前年同期比)



## 4. 小売業の景気動向

小売業の売上額は減少企業が過半数を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。客数は回復がみられない。客単価は、横這企業が僅かに増えている。

商品仕入価格は、横這企業が大勢を占めている。商品在庫は、改善がみられる。商品販売価格には、回復がみられない。

採算状況は、悪化企業が過半数を占めるものの、D.Iは僅かに縮小している。資金繰りは、回復の動きは鈍い。荒利益率は、悪化企業が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。

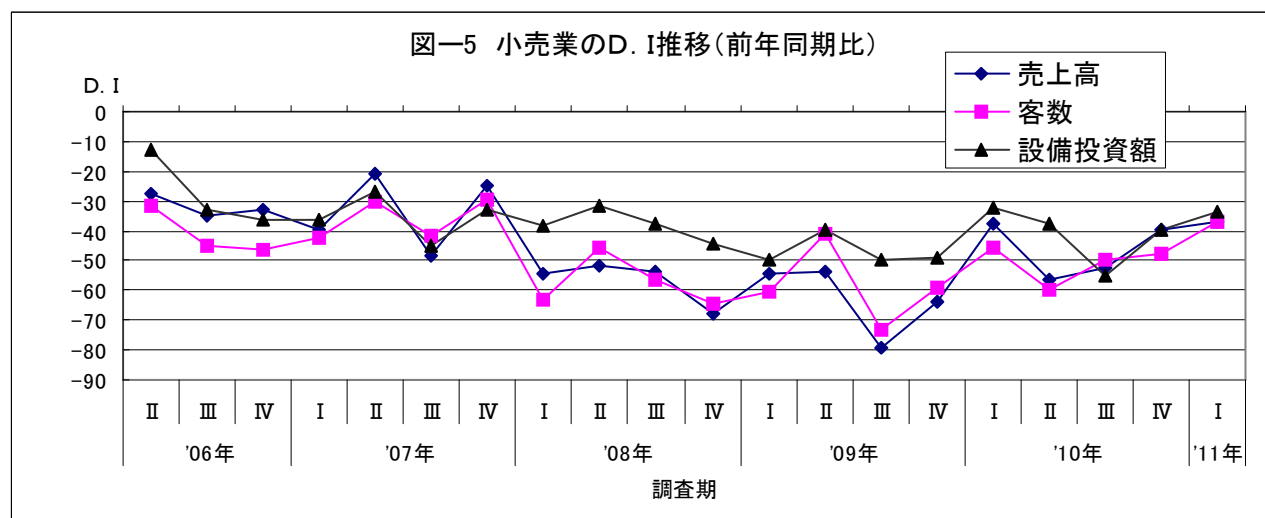
向こう3カ月の景況感は、好転見通しはまだ少数で、悪化見通しが6割以上を占めている。

前年同期比では、売上額は、減少企業が6割を占めている。客数、設備投資額はD.Iのマイナス幅が縮小している。

(表16、図5)

表 16. 小売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	33	21.2	24.2	54.5	-33.3
	客数	33	15.2	36.4	48.5	-33.3
	客単価	32	12.5	43.8	43.8	-31.3
	商品仕入価格	33	15.2	75.8	9.1	6.1
	商品在庫	33	6.1	72.7	21.2	-15.2
	商品販売価格	33	6.1	57.6	36.4	-30.3
	採算状況	33	6.1	39.4	54.5	-48.5
	資金繰り	33	6.1	45.5	48.5	-42.4
	荒利益率	33	6.1	54.5	39.4	-33.3
	向こう3カ月の景況	33	9.1	30.3	60.6	-51.5
前年同期比	売上額	30	23.3	16.7	60.0	-36.7
	客数	30	20.0	23.3	56.7	-36.7
	設備投資額	30	13.3	40.0	46.7	-33.3



## 5. 飲食店の景気動向

飲食店の売上は、減少が6割を占めている。客数は、横這と悪化が拮抗している。客単価は、減少企業が増え、D.Iのマイナス幅が拡大している。

採算状況と資金繰りは、好転企業が皆無で、7割が悪化している。荒利益率は9割が悪化していて、厳しい状況である。

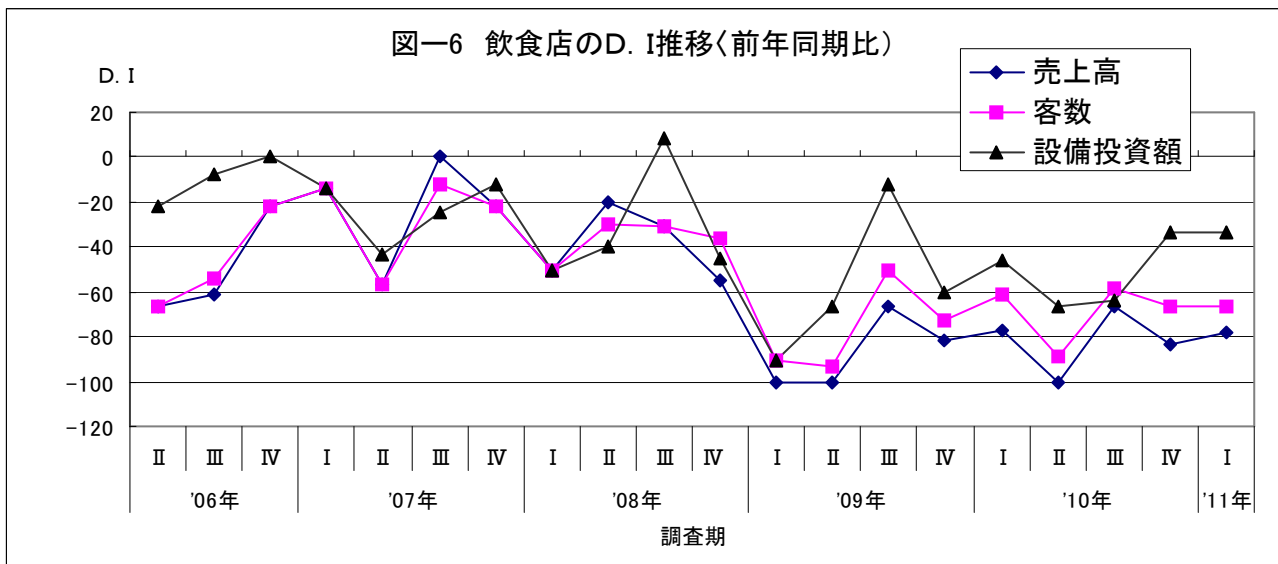
向こう3カ月の景況感は、好転見通しは僅かである。

表 17. 飲食店の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	10	0.0	40.0	60.0	-60.0
	客数	10	0.0	50.0	50.0	-50.0
	客単価	9	11.1	22.2	66.7	-55.6
	採算状況	10	0.0	30.0	70.0	-70.0
	資金繰り	10	0.0	30.0	70.0	-70.0
	荒利益率	10	0.0	10.0	90.0	-90.0
	向こう3カ月の景況	9	11.1	44.4	44.4	-33.3
前年同期比	売上額	9	0.0	22.2	77.8	-77.8
	客数	9	0.0	33.3	66.7	-66.7
	設備投資額	9	11.1	44.4	44.4	-33.3

前年同期比では、売上額は、減少企業が減り、D.Iのマイナス幅が僅かに縮小している。客数と設備投資額のD.Iは、前期と変わらない。

(表17、図6)



## 6. サービス業の景気動向

サービス業の売上額は、減少企業が過半数を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。客数は減少企業が増え、D.Iのマイナス幅が拡大している。客単価は横這が過半数を占めている。

採算状況は、悪化企業が過半数を占めるものの、好転企業が増加している。資金繰りは横這が半数を占めている。荒利益率はD.Iのマイナス幅が拡大している。荒利益率はD.Iのマイナス幅が拡大している。

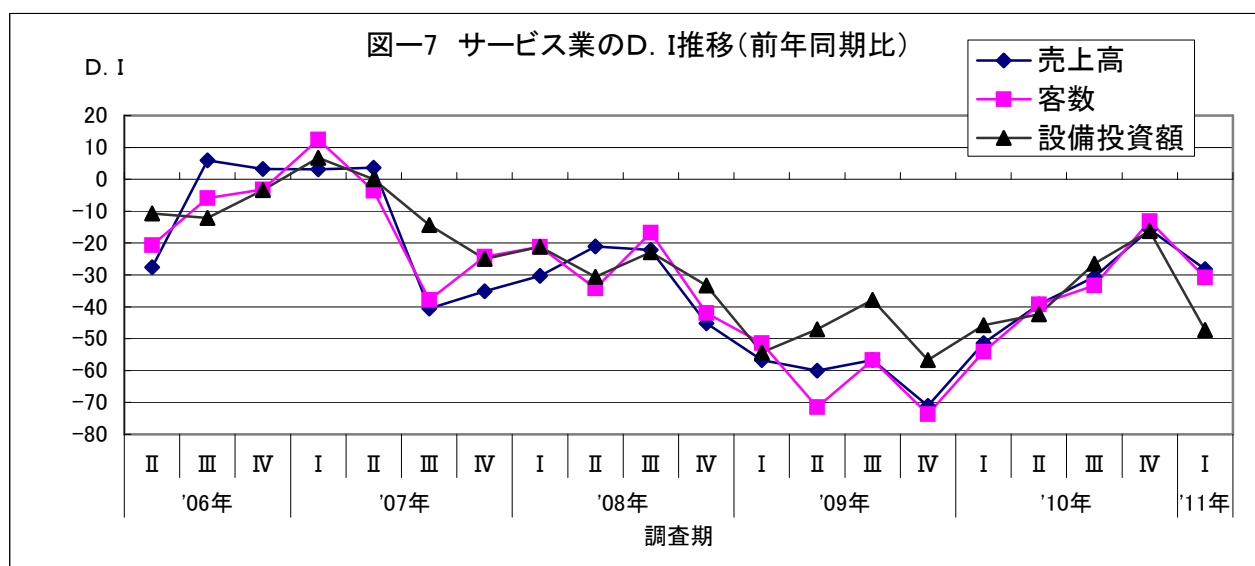
向こう3カ月の景況感は、好転見通しが増え、D.Iのマイナス幅が僅かに縮小している。

表 18. サービス業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	39	23.1	23.1	53.8	-30.8
	客数	39	15.4	35.9	48.7	-33.3
	客単価	39	2.6	53.8	43.6	-41.0
	採算状況	39	15.4	33.3	51.3	-35.9
	資金繰り	38	7.9	50.0	42.1	-34.2
	荒利益率	38	7.9	36.8	55.3	-47.4
	向こう3カ月の景況	37	16.2	37.8	45.9	-29.7
前年同期比	売上額	39	25.6	20.5	53.8	-28.2
	客数	39	17.9	33.3	48.7	-30.8
	設備投資額	36	2.8	47.2	50.0	-47.2

前年同期比では、売上額と客数は、減少企業が増え、D.Iのマイナス幅が拡大している。設備投資額は、減少企業が半数を占め、D.Iが大きく後退している。

(表18、図7)





自由意見（原文のまま）

業 種 名	規模	自 由 意 見
総合工事業	B	機器類がすぐ入らなくなり、ベニヤ等資材が入らないといった工事に支障が出ている。
	C	東関東大震災により受注状況の先行きが見えない。また、資材高騰で仕入が苦しい。
		建設業だけ最悪だ。市議員、役所の方々も給料を安くしてください。
	D	もう限界ですワ。地震の影響で今後公共工事が少なくなるのでは？
職別工事業	B	仕事がないです。(安いです。)
	C	東北大震災によりイベント等の開催自粛により仕事が減少し売上高不足。
設備工事業	C	震災の影響にて材料の値上と入荷不足が目立ってきて、工事の進捗に悪影響が出てきて困っています。
食料品製造業	A	東北に営業所を持つ得意先が在庫を全滅。その先の顧客が見通しできない等、3月震災以降当方も全般に売上低下。
飲料・飼料・たばこ製造業	A	今後現況が続けば廃業せざるを得ないと思っています。先の見通しは真っ暗です。
衣服・その他繊維製造業	A	日本は世界の多くの国にこの震災に対して大きな愛をいただきました。何だか日本はやはりすごい国なんだと思います。がんばろう日本。
パルプ・紙・紙加工品製造業	B	仕入単価が上昇して、販売価格では尚値下交渉あり。続いて、困難です。
	E	東日本大震災による非常事態に、政府の本当に適切かつ迅速な政策を要請する。今、正に国家危急存亡の危機。
	F	今後は震災の影響で日本また西日本がどのようになっていくかまだわからない。
プラスチック製品製造業	A	震災で原料メーカーが被災した。
	F	災害の影響は、今後不明だが、悪くなるのは間違いない。
窯業・土石製品製造業	F	震災後の在庫確保の動きが起こった様子で、1～3月は、3月の売上増により、生産額が増加した。
鉄鋼業	C	大企業は東日本大震災の影響で部品調達まかせの生産計画はやむを得ないところかもしれないが、我々中小企業はその変動する計画に苦慮している。
非鉄金属製造業	G	東日本大震災による二次被害（受注減）がいつまで続くか心配である。
金属製品製造業	E	東日本大地震発生。多くの犠牲者にお悔やみ申し上げますと共に被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。復旧に大変な費用と労力が必要です。できるだけ支援をさせていただきます。
		東北震災の影響で、原材料の調達に、一部で問題が出る。
	F	震災の影響により、原材料の入手が困難になることが予測される。
一般機械器具製造業	G	東北・関東大震災の影響で、自動車メーカーからの受注が急減し、売上が減少している。影響が長期化すると厳しい。
	D	震災の影響を見極め中。

自由意見（原文のまま）

業 種 名	規模	自 由 意 見
一般機械器具製造業	E	東北震災の状況によって、経営業績が大きく左右されると想像できる。
	F	東日本大地震により生産状況が現在不透明だ。材料値上は受注先との決定が延びている。今後しばらくは、受注量が少なくなる。
電気機械器具製造業	E	東日本巨大地震による被災者の救済と被災地の1日も早い復興を祈念します。がんばれ東日本の被災地の皆様。 震災の影響が読めない。
	G	震災需要増加に対応できるか。部材の調達が課題となる。
繊維・衣服等卸売業	B	納入先の在庫調整も終わり、少しずつ出荷できるようになりましたが、車の修理代が大幅に増加したため、資金繰りは良くなりませんでした。
		震災後大手企業の生産が大幅に下振れしている。先行き不安。
飲食料品卸売業	C	利益率の確保が困難になっている。
織物・衣服・身の回り品小売業	B	昨年からの売上低下が止まらず。大元の原材料、綿花の不足・値上がりの影響で、仕入価格が1～2割上がった。震災の影響は不明だが、良いことはないだろう。
		今年に入り景気も少し回復している。3月11日以降、大震災が起これ、今後は大変厳しくなると思います。
飲食料品小売業	C	大災害の影響が大きく出てくるだろうが耐えるしかなく、耐えられなくなれば廃するしかないか。命あれば、と思えば、何でも耐えられる。
		3月だけでみると東北震災の後売上は増加したが、4月は売れる商品の欠品で減少すると予測！！
		SOS.救助してください。
自動車・自転車小売業	B	3月11日の震災の後、大きく落ち込んできた。また、福島原子力発電所の放射能をあげる話が出てきて以来、特に悪くなってきた。色々な催しがキャンセルになり、ますます景気のほうが悪くなるような気がしている。
	D	震災以降最悪である。これから先は企業の体力勝負。国も自治体も経済復興を支援しないとダメではないのか。
家具・建具・じゅう器小売業	B	地震の影響で、景気が低迷しないか心配です。
	E	1～3月、デスクが前年より悪い。特に震災後は、大変悪くなった。
一般飲食店	B	原価、人件費、値上がるばかりで、ほとんど利益なし。(赤字です)良くなる方向が見えません。
	D	今後、材料値上があり、更に厳しくなりそうです。
不動産取引業	B	国の政策として、中古住宅の流通を拡大させようとしているのに、未だに住宅ローン控除の適用条件として築年数の制限がある。矛盾している。今すぐ撤廃すべきである。
洗濯・理容・浴場業	B	震災の影響がお客様にある。よって、こちらにもその影響がきている。
	D	震災の影響で小売業・サービス業の景気回復は更に遅れそうです。
その他の事業サービス業	F	いつものことながら大変に尽きる。

規模区分

A = 1～3 人、B = 4～9 人、C = 10～19 人、D = 20～29 人、  
E = 30～49 人、F = 50～99 人、G = 100 人以上

